

授業科目 リハビリテーション概論

【担当教員名】 真柄 彰	対象学年	1	対象学科	理学・作業・言語・義肢
	開講時期	後期	必修選択	必修
	単位数	2	時間数	30
【カリキュラムポリシーとの関連性】				
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現
◎	◎	◎	◎	◎
【概要・一般目標：GI0】 人が疾病や外傷などにより心身に障害をもっても、人間として幸せな気持で、生き甲斐をもち一般社会のなかで生活できるように考え援助していくのがリハビリテーション医学の役割である。一般医療の中ではとすれば障害者の存在が忘れられがちとなることがある。リハビリテーション医療は障害者のためだけにあるのではなく、いつ傷害を受けるかもしれない健常者のためにも大切である。障害者と健常者がわけへだてなく共存できることが目的であることを学習する。				
【学習目標・行動目標：SBO】 1. リハビリテーションの理念と歴史を理解する。 2. 医学的・職業的・社会的・心理的側面から包括的なリハビリテーションの考え方を理解する。 3. 障害の構造を理解しリハビリテーション医学における各職種的位置づけを理解する。 4. 他職種とのチームアプローチのおこない方を理解する。 5. 代表的な疾患や外傷について生理学・運動学・高次脳機能学・障害者の心理などの障害に関する機序を理解する。 6. 具体的な治療内容について説明できるようになる。 7. 障害に対応するための家庭・社会的環境の評価法とその改善のアプローチを説明できるようになる。				
回数	授業計画・学習の主題		SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	地域リハビリテーションの実例		1,2	講義
2	リハビリテーションと機能訓練の違い リハマインド		2	講義
3	医療・保健・福祉とリハビリテーション 回復期リハビリテーション病棟		4	講義
4	廃用症候群		5	講義
5	維持期リハ		2	講義
6	国際障害分類 ICIDH		3	講義
7	国際生活機能分類 ICF その1		3	講義
8	国際生活機能分類 ICF その2		3	講義
9	リハビリテーション科医の役割 障害の心理的受容		2,5	講義
10	理学療法と理学療法士		4,6	講義
11	作業療法と作業療法士		4,6	講義
12	言語聴覚士の役割と言語聴覚療法		4,6	講義
13	装具は障害者の必需品		4,6	講義
14	リハビリテーションの実例 脳卒中のリハ		6,7	講義
15	高齢者のリハビリテーション		5,7	講義
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所> <発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)		リハビリテーション総論	椿原彰夫	診断と治療社 2008・3,600円＋税
		リハビリテーション概論・リハビリテーション医学レジュメ集	真柄 彰	2010・600円
参考書				
その他の資料		ポータルサイトに参考ファイルを提示する		
【評価方法】 出席 15%程度 定期試験 85%程度		【履修上の留意点】 予習復習にこころがけること		